



自民石川

機関誌 第18号

自由民主党石川県支部連合会
組織広報本部

●金沢市鞍月5-255
TEL 076 (237) 0911 (代表) FAX 076 (237) 0915
<http://www.hokuriku-web.jp/jf-isikw>

混迷する国会に終止符を! いざ天下分け目の総選挙へ!

国内外に山積する難問に立ち向かい、力強く船出した麻生内閣。その下で行われる第45回衆議院選挙に向けて、自民党石川県連は選挙対策本部を設置しました。混迷する国会に終止符を打ち、国民生活の安心と活力ある日本を取り戻す重責を果たすために、必勝を期して運動を進めてまいります。



ガンパロー三編で衆議院選挙必勝を期した「支部長・幹事長、県議合同会議」=金沢市内のホテル

(写真提供・北國新報社)

安心と活力ある日本へ不退転で臨む

県連が選対本部を設置

今回の衆議院選挙には、自民党から一区で藤嶋、二区で森喜朗、三区で北村茂男の現職三氏が小選挙区で立候補を予定し、来る選挙戦に向けて積極的な活動を行っています。

選挙戦のやぐらとなる県連の選挙対策本部も、金沢市内のホテルで九月二十七日に開いた「支部長・幹事長、県議合同会議」で決定。きめ細かな運動を

展開するため、三つの小選挙区ごとの選対本部も設置し、今後、地域支部、職域支部との連携を強化しながら万全の態勢で臨みます。

合同会議では、県連を代表して福村章、選対本部長代行が「戦後六十年、日本は、自民党の政権運営によって世界に誇れる素晴らしい国となった。この国を守るために、石川県では何が何でも議席を死守したい」とあいさつ。馳浩代議士が「状況は昨年の参院選の時と何も変わっておらず、気を引き締めて戦いたい」、北村茂男代議士は「結党以来の危機的な状況だが、夢と希望を持てる社会をつくるために議席を守らせてほしい」と、それぞれ決意を述べました。

また、岡田直樹参院議員は「厳しさを増す景気や生活を改善するには誰が一番役に立つ人材なのか、堂々と自信を持って県民に訴えてほしい」と支持の拡大を

自民党立候補予定者の横顔

子どもの未来に責任を!!

石川1区
はせ浩 (47歳)



昭和36年(1961)生まれ、千坂小、瑞和中、星稜高、専修大文学部卒。星稜高教諭時代にロス五輪に出場、元フロッレスラー。平成7年(1995)参議院議員初当選、同12年(2000)衆議院議員に初当選、以来3期。元・文部科学副大臣、現・党文部科学部会長などを務める。

与党信任で国政の安定を

ご承知のように、現在、衆議院では与党が三分の二以上の議席を得ています

が、参議院では野党が過半数を握る「ねじれ国会」状態が続いています。しかし、自民党と公明党の連立政権が今回の衆議院選挙で国民の信任を受け、引き続き政権を担うことは、直前に示された民意として参議院にも大きな影響を与え、審議拒否の連発という野党の姑息な戦術を封じ込めることができます。

これにより、国民生活と深くかかわる法案の審議がスムーズに進み、無届の急となつている景気対策や年金・医療問題、減税等への対応が加速します。また、国際社会で重要な地位を占める日本に課せられた役割をきちんと果たし、信用を高めることが可能になります。まさに日本の将来を占う大きな節目となる衆議院選挙です。

ふるさとに感謝、ふるさとのために。

石川2区
森喜朗 (71歳)



昭和12年(1937)生まれ、金沢二水高、早稲田大卒。新聞記者、国会議員秘書を経て、同44年(1969)衆議院議員初当選、以来13期。文部、通産、建設の各大臣、党幹事長、総務会長、政調会長などを歴任し、平成12年(2000)内閣総理大臣に就任。現在、日本体育協会会長なども務める。

選対本部の主な役員(敬称略)

- ▽選挙対策総括責任者 岡田直樹▽選対本部長 中川石雄▽選対本部長代行 福村章
- ▽選対本部幹事長 石田忠夫▽事務局長 山田省悟▽政策担当部長 下次佳充▽同担当部長代行 吉崎吉規▽同担当部長 作野広昭▽総務担当部長 山田志昭▽同担当部長代行 藤井義弘▽同担当部長 宮元隆▽組織広報担当部長 中村熱▽同担当部長 宮地治
- ▽顧問 谷本正憲、紐野善昭

●比例は自民党!

衆議院選挙の北陸信越ブロックでは、前回、瓦力代議士が当選しました。瓦代議士は、これまでに防衛庁長官、建設大臣を務めたほか、自民党の重鎮として活躍、特に、能登振興に尽力してきました。



ふるさと再生が使命。

石川3区
北村しげお (62歳)



昭和20年(1945)生まれ、輪島高、明治大卒。国会議員秘書を経て、同50年(1975)県議会議員初当選(輪島市選挙区)、県議会議長。平成17年(2005)衆議院議員に初当選し、現在、衆院国土交通委員会委員、党農林水産関係団体委員会、商工・中小企業関係団体委員会の各副委員長などを務める。

NEWS

岡田直樹参院議員が 国土交通政務官に再任

麻生内閣の発足に伴う政務官人事で、岡田直樹参院議員が国土交通大臣政務官に再任されました。日月の福田改造内閣で同政務官に任命されたのに続く就任で、旧運輸省の所轄である鉄道、航空、港湾、海事、陸運などの整備や安全・危機管理、観光振興を担当します。



岡田議員は「社会基盤整備や災害対策など重要な仕事の一翼を引き続き担うことに身の引き結まる思いであり、国民目線で事業や省内の規律をチェックし国民に奉仕したい」との抱負を述べました。

「女性の集い」に350人 有村参院議員が講演

自民党県連女性局は9月20日、金沢市内のホテルで「女性の集い」を開き、党女性局長の有村治子参院議員が「海洋国家日本の進路」と題して講演し、約350人が熱心に耳を傾けました＝写真＝。

有村参院議員は、海に囲まれた日本にとって排他的経済水域が持つ意義と恩恵を説明しながら、竹島や尖閣諸島問題でわが国の主張の正しさを国際的にアピールすることの重要性を強調しました。



また、近づく解散・総選挙を見ずして、出席者は党公認候補の必勝を誓いました。

(写真提供・北國新聞社)

安心の暮らし、活力ある地方へ。 私たち自民党が実現します。

都市と地方の格差解消が大きな政治テーマとなっています。自民党県連では、県選出の党国会議員を先頭に、県議、市町議が力を合わせて、安心して暮らせる活力ある地方の実現にまい進します。

交通基盤



北陸新幹線の整備促進と金沢以西の延伸力を入れます
(写真提供・北國新聞社)

- 北陸新幹線の金沢開業に向けた整備スキームの見直しと、金沢以西延伸を推進します。併せて、並行在来線の利便性確保に努めます。
- 小松空港の国際化推進、能登空港の空港機能の充実と新規路線（大阪便等）の開設を促進します。
- 金沢港大水深岸壁の整備を促進し、国際物流拠点としての航路開拓と、港湾活用型企業の集積を進めます。

福祉

高齢者医療制度の導入で生じた混乱を解消するため、必要な手直しを速やかに

に行い、将来にわたって安定的で負担の公平が図れる医療制度を整備します。

- 年金記録問題の早期解決に万全を期すとともに、無年金・低年金者対策の充実を図ります。
- 救急・産科・小児科等の地域医療を確保するとともに、医師、看護師、薬剤師の偏在を解消し、石川に安心の医療を届けます。
- 児童手当の拡充や保育サービスの充実、育児休業制度の改革など、子育て支援策を強化します。

産業



だれもが安心して暮らせる地域医療を届けます

- 原油・原材料価格の高騰に苦しむ業種への金融支援をはじめ、中小・零細企業の資金繰り対策（セーフティネット金融等）に全力をあげます。
- 農林水産業経営の体質を強化するた

生活



新しい経営に直面する中小企業、農林水産業を守ります
(写真提供・北國新聞社)

- 派遣労働者の待遇改善とフリーターなど若者の正規雇用化への支援を進め、安心して働き生活できる環境を整備します。
- 国民が安全な消費生活を営めるよう「消費者庁」を設置し、消費者保護の実効性と信頼性を高める法律の早期成立を図ります。
- 教育にかかる家計負担を軽減するため、奨学金制度の拡充や幼児教育の無償化の検討を進めます。



食の安全の確立と消費者保護に万全を期します
(写真提供・北國新聞社)

地方分権

- 地域経済を立て直すため、地域で実施する施策に必要な財源を確保し、地方独自でさまざまな活性化策を着実に実施できるように改めます。
- 国、地方、民間の役割分担を明確にし

て改革し、行政のムダな支出や不要不急の事業を徹底的に排除します。

●石川県を日本の伝統や文化や自然が息づく古里として守り育て、世界に向けて発信することで交流の輪を広げ、地域に活力を呼び込みます。

コラム

言葉だけが踊る 民主党の無責任

身内も認めた政権公約の破綻

臨時国会で代表質問が行われた十月一日、民主党の小沢一郎代表が掲げた政権公約には、驚きを通り越して正直あきれはてた。ガソリン税など暫定税率廃止、高速道路無料化、子ども手当の創設、農家の個別所得補償などを次々と約束し、「どうだ」と言わんばかりに胸を張ったが、さてその財源はどこにあるのだろうか。

国民に対して実現不可能なバラ色の夢を描くのは、責任政党が決してはならない禁じ手である。そもそも、この政権公約が破綻していることを、身内である前原誠司副代表が月刊誌の対談で認めてしまっている。

さらに言えば、昨年十一月、自民党との大連立構想が破綻となった際、小沢代表は「民主党はさまざまな面で力量が不足している」と、思わず自らの政権担当能力のなさを認めるような発言をしたことを忘れてはなるまい。

もちろん、自民党も今後、行政や税金の無駄使いには徹底的にメスを入れていく。しかし、それだけで民主党の政権公約を裏付ける財源の確保は到底、不可能であり、国民もマスコミ報道に惑わされず、冷静に考えて頂ければと願う。そして、何よりも、国民受け、選挙目当てのパラマキ政策に頼らざるを得ない民主党に、今一度、「責任」の二文字をかみしめてもらいたい。